

陸前高田市立高田小学校

2014年 12月 16日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 「saveMLAK」博物館・美術館、図書館、文書館、公民館の被災・救援情報 <http://savemlak.jp/wiki/saveMLAK>
- (2) 「陸前高田市東日本大震災検証報告書:資料編」陸前高田市
<http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/bousai-syoubou/shinsai/shiryou.pdf>

【場所】

広田湾から1.2kmの位置にある。
住所:岩手県陸前高田市高田町下和野1



【東日本大震災による被害】

津波により校舎1階が浸水した。(1)

【震災当日の様子】

1年生から2年生は「帰りの会」の実施中、3年生以上は授業中であった。地震発生後、机の下へもぐるよう指示した。その後、校庭に避難して待機していた。校庭は校舎より一段低くなっており、海側が見えにくい状態であった。校舎側にいた教職員が小学校南側の十字路口まで来た津波を確認して、「津波だ、上へ！」と指示し、児童は避難を開始した。児童、教職員は様々な経路で校舎裏へ逃げ、高寿園、和野会館、希望ヶ丘病院などへばらばらに避難した。自宅が津波被害を受けなかった児童は自宅に戻った。高田小学校は津波被害を受け、中へ入れない状態であったため、校長がしばらくの間、校舎裏に残り、児童を迎えに来た保護者に避難先などを伝えた。

翌3月12日より、教職員が各避難所を徒歩で回り、児童及び保護者の安否確認を行った。保護者が迎えに来ない児童は、教職員と一緒に高寿園に避難した。全ての児童の引渡しを完了するまで1週間程度を要した。(2)

【調査して言えること】

学校の標高は12mほどあるが広田湾から1.2kmの場所にあり、海から学校まで山などの遮る地形が無いいため、地震の際に津波を警戒した避難の必要がある学校である。しかし、震災前のハザードマップでは津波浸水想定区域には入っていなかった。(2)

学校は東西を山に挟まれるような場所にあり、児童と教職員が避難した高寿園は北東に道なりに800mほど進んだ場所にあり、標高は約40mである。和野会館は北に道なりに800mほど進んだ場所にあり、標高は約50mである。希望ヶ丘病院は北に道なりに1.5kmほど進んだ場所にあり、標高は110mほどである。いずれも標高の高い安全な場所である。

近くに高い場所が複数あり、学校外に避難しやすい学校である。



南から見た学校(2014/3/17撮影)



学校の周辺から見た海の方角(南)(2014/3/17撮影)

※見えにくい山の手前に広田湾がある。
学校から海までは比較的開けた地形になっていることが分かる。